

チンパンジーにおける夜間勃起現象の発見

—他の目的の研究からの偶然の産物—

概要

夜間陰茎勃起はヒトには自然にみられる現象です。ただ、ヒト以外の動物で同様の現象の報告はほとんどありませんでした。夜間の動物の状態を観察するのが難しいためです。本研究は、別の目的の研究から副次的に生まれた成果です。京都大学野生動物研究センターのハーバーキャンプ・クリスティン大学院生（研究当時、現：特定研究員）、平田聡 同教授らの研究グループは、飼育下のチンパンジーの睡眠の状態を調べるために夜間の様子を観察していたところ、チンパンジーにも夜間陰茎勃起が見られることを偶然に観察しました。

赤外線ビデオカメラを用いて、12 個体の雄のチンパンジーの夜間の様子を撮影しました。京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ（熊本県宇城市）での研究です。各個体 6 日ずつ、のべ 72 日分の夜間行動をビデオ記録しました。その結果、8 個体のチンパンジーにおいて合計 46 回の夜間陰茎勃起が観察されました。そのうち 4～6 個体では、夜間陰茎勃起の後にマスターベーションが生じ、うち 1 例では射精らしき現象が認められました。本研究は、ヒト以外の霊長類で夜間陰茎勃起が生じることを初めて確認した成果であり、ヒトに特有の現象ではなく、おそらく他の哺乳類でも広く見られるものである可能性を示すものです。

本研究は動物実験委員会の許可を得ておこなったもので、日常のチンパンジーの行動に操作を加えたものではありません。チンパンジーの寝室の上部からビデオカメラで撮影した単純な観察研究です。録画したビデオ映像に予期せず記録されていた現象を記載した研究にすぎないので、特に今後の研究計画はなく、また将来継続して研究する予定もありません。

本成果は、2022 年 5 月 10 日に国際学術誌「Behaviour / Brill」にオンライン掲載されました。

<研究者のコメント>

この研究は、偶然の観察から生まれました。研究がただ 1 つの目標を追い求めていけばよいものではないことを示す例と言えるかもしれません。何か課題に向かっているとき、予想外に別のことを発見することもあるかもしれません。そんな発見があったら、ぜひ楽しんで追求してみてください。（ハーバーキャンプ クリスティン）

<論文タイトルと著者>

タイトル：Spontaneous nocturnal erections and masturbation in captive male chimpanzees (*Pan troglodytes*)（飼育下のチンパンジーの自然な夜間勃起とマスターベーション）

著者：Kristin Havercamp, Matilda Brindle, Volker Sommer & Satoshi Hirata

掲載誌：Behaviour / Brill DOI: 10.1163/1568539X-bja10166